

# 商業簿記 目次

日商簿記検定 2 級の概要	・・・	P. 2
本書の特徴と効率的な使い方	・・・	P. 3
第 1 章 決算手続対策 (第 3 問対策)	・・・	P. 5
1. 簿記一巡と決算手続	・・・	P. 6
2. 精算表の作成	・・・	P. 13
3. 財務諸表の作成	・・・	P. 44
4. 本支店会計	・・・	P. 52
第 2 章 重要な仕訳問題 (第 1 問対策)	・・・	P. 64
A ランク・B ランクの重要仕訳		
1. 仕訳問題 1～25 問題	・・・	P. 65
2. 仕訳問題 1～25 解答	・・・	P. 70
3. 仕訳問題 1～25 解説	・・・	P. 72
C ランクの注意仕訳		
4. 仕訳問題 26～40 問題	・・・	P. 98
5. 仕訳問題 26～40 解答	・・・	P. 101
6. 仕訳問題 26～40 解説	・・・	P. 102
その他の出題可能仕訳		
7. 仕訳問題 41～60 問題・解説	・・・	P. 117
第 3 章 帳簿組織・伝票ほか (第 2 問対策)	・・・	P. 127
1. 特殊仕訳帳制	・・・	P. 128
2. 伝票会計	・・・	P. 138
3. その他の論点 (商品有高帳ほか)	・・・	P. 149

## 日商検定2級の概要

- 試験の実施時期

毎年2月、6月、11月の日曜日（年3回）

- 試験科目

商業簿記

工業簿記

- 試験時間

2時間

- 合格基準

70%以上

- 受験者数・合格率

毎回の受験者数はだいたい4万人以上であり、合格率は30%前後が標準的な目安です。

- レベル

株式会社の経営管理に役立つレベルの商業簿記および工業簿記(初歩的な原価計算を含む)です。財務諸表を読む力、企業の経営状況を把握できるだけの知識がみについていて試されます。

出典 日商検定・簿記ホームページ

(<http://www.kentei.ne.jp/boki/>)

## 本書の特徴と効率的な使い方

- 標準的なレベルの出題で、85点以上得点できる力をつける

日商簿記検定2級の本試験は、第1問～第5問まで、大問5題が出題されます。配点は次のようになっており、合格ラインは70点です。

問 題	出題内容	標準配点
第1問（商簿）	仕訳問題5題	20点
第2問（商簿）	特殊仕訳帳、伝票など	20点
第3問（商簿）	決算手続	20点
第4問（工簿）	材料費計算、単純総合原価計算、製造原価報告書、個別原価計算など	20点
第5問（工簿）	標準原価計算、損益分岐点分析、工程別総合原価計算、直接原価計算など	20点

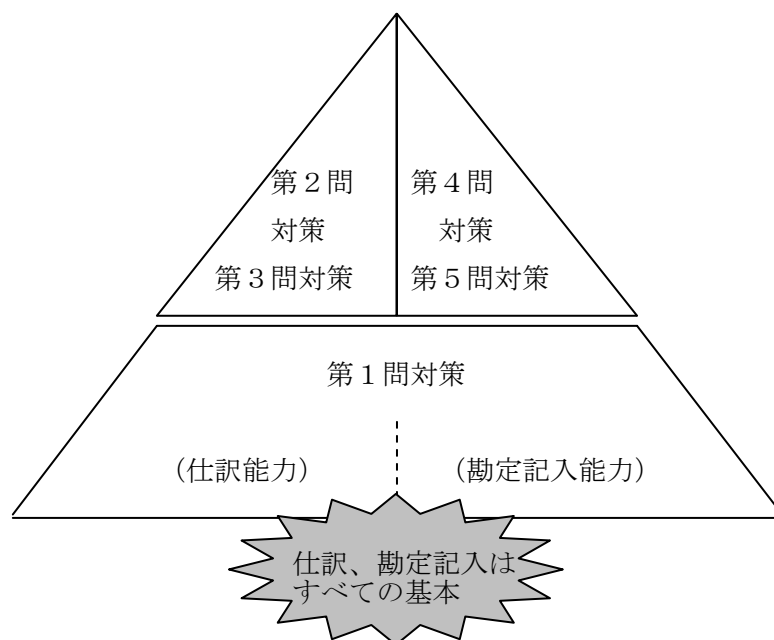
※第4問および第5問は、過去に出題の回数が多いものを出題内容として例示していますが、それぞれ、第4問と第5問のどちらで出題されるかは、かならずしも厳格に区別されているわけではなく、ある程度柔軟に考えていただけるとよいでしょう。

本書の目的は、30%前後の標準的な難易度において、85点前後をとれるような力をつける実力を身につけることです。

そのためには、商業簿記と工業簿記で苦手な科目を作らず、できるだけまんべんなく一定水準の処理をできるよう、知識・手続をマスターする必要があります。

それでは、次に、日商2級の合格に必要な実力とはどのようなものか、その全体像を見ていきましょう。

●合格に必要な実力の全体像とは



上記の図表でも分かるように、すべての基本は仕訳能力と勘定記入能力にあります。

商業簿記では仕訳能力と勘定記入能力のバランスが重視されますが、工業簿記では特に勘定記入能力が高いか低いかで、大きく優位性が変わってきますので、普段の学習から、仕訳の学習を行うときには、かならず総勘定元帳のT字記入（勘定記入）を意識してください。

まずは、

- ① 第3問対策の「決算手続の理解」
  - ② 第1問対策の「代表的な仕訳パターンのマスター」
- の2つが、優先的に取り組むべき課題となります。

毎日、20分ずつでかまいませんから、継続して、毎日、少しずつ仕訳と決算知識に触れてください。

それが、もっとも確実な2級合格への道となります。

# 第1章 決算手続対策（第3問対策）

1. 簿記一巡と決算手続
2. 精算表の作成
3. 財務諸表の作成
4. 本支店会計

## 1. 簿記一巡と決算手続

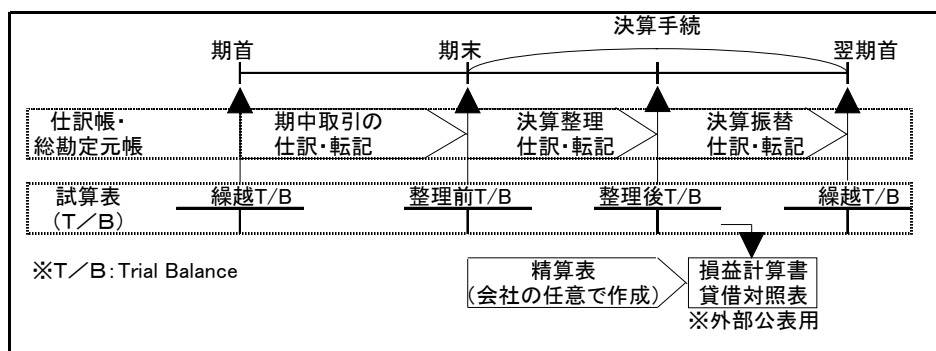
### (1) 総論

日商簿記検定2級では、第3問として決算手続の問題が出題されます。  
想定される出題パターンは、だいたい次の5つです。

1. 財務諸表の作成(頻出)
2. 精算表の作成(頻出)
3. 本支店合併財務諸表の作成(頻出)
4. 決算3勘定の記入
5. 決算整理後残高試算表の作成

上記の中でも、1.～3.は、過去に何度も出題されており、重要論点です。4.と5.は、1.～3.がしっかりマスターできていれば、その応用で、十分合格点が取れますので、ここでは、1.～3.を中心に学習します。

まずは総論です。簿記一巡と決算手続について、要点を押さえましょう。



上記のように、期末の決算手続は主に**決算整理手続**と**決算振替手続**からなります。

また、帳簿外の手続として、「決算整理前試算表」、「決算整理後試算表」、および「繰越試算表」という全科目の集計表が作成され、帳簿記入が正確に行われているかどうかをチェックします。

さらに、決算整理後残高試算表を基礎として、損益計算書・貸借対照表といった、外部公表用の財務諸表が作られることとなります。

なお、決算整理前試算表から財務諸表作成までの作業を一つの表にまとめた「精算表」が、会社の任意で作られることもあります。

## (2) 決算整理手続

企業はまず、1年間の取引の記帳結果として、総勘定元帳における各勘定科目残高を一覧表にした「決算整理前試算表」を作成し、その貸借合計が一致することを確かめて、期中取引の帳簿記入が正確に行われているかをチェックします。

次に、期間利益を計算するために、有価証券の評価替えや固定資産の減価償却など、期末における調整を行います。これらの調整を**決算整理手続**といいます。

### ☆決算整理仕訳の代表例(暗記項目)☆

#### 1. 現金・預金の調整(未渡し小切手・配当金領収書・過不足など)

(借) 現金 預金	×××	(貸) 買掛金	×××
(受取配当金 etc)			

#### 2. 貸倒引当金の設定

(借) 貸倒引当金繰入	×××	(貸) 貸倒引当金	×××
-------------	-----	-----------	-----

#### 3. 有価証券の期末評価

(借) 売買目的有価証券	×××	(貸) 有価証券評価損益	×××
--------------	-----	--------------	-----

(借) 満期保有目的債券	×××	(貸) 有価証券利息	×××
--------------	-----	------------	-----

#### 4. 売上原価と期末商品残高の算定

(借) 仕入	×××	(貸) 繰越商品	×××
--------	-----	----------	-----

(借) 繰越商品	×××	(貸) 仕入	×××
----------	-----	--------	-----

(借) 棚卸減耗費	×××	(貸) 繰越商品	×××
-----------	-----	----------	-----

商品評価損	×××	繰越商品	×××
-------	-----	------	-----

#### 5. 減価償却

(借) 減価償却費	×××	(貸) 減価償却累計額	×××
-----------	-----	-------------	-----

#### 6. 繰延資産の償却

(借) 社債発行費償却	×××	(貸) 社債発行費	×××
-------------	-----	-----------	-----

#### 7. 貸倒引当金以外の引当金の設定

(借) 修繕引当金繰入	×××	(貸) 修繕引当金	×××
-------------	-----	-----------	-----

#### 8. 経過勘定の計上

(借) 前払費用	×××	(貸) 支払保険料	×××
----------	-----	-----------	-----

#### 9. 法人税等の計上

(借) 法人税等	×××	(貸) 未払法人税等	×××
----------	-----	------------	-----

(3) 決算振替手続

決算振替手続とは、決算整理の手続までが終了したあと、各帳簿を締め切って翌年の記帳に備えるために行う手続のことです。

<手順>

(1) 収益・費用といった損益勘定項目は全て、残高を0にし、「**損益**」勘定というとりまとめの勘定科目に振り替える。  
「**損益振替仕訳**」

仕 入	損 益	売 上
100   100	100   180	180   180
↪		↪

(2) 損益勘定の貸借差額は当期の純利益又は純損失を表し、これを「**繰越利益剰余金**」勘定に振り替える。  
「**資本振替仕訳**」

損 益	繰越利益剰余金
100   180	80
80	
↪	

(3) 資産・負債・資本といった残高項目は、次のいずれかの方法で決算整理後残高をそのまま翌年に繰り越す。

- ① 総勘定元帳の各勘定口座を締め切ると同時に「**繰越試算表**」を作成する。  
「英米式簿記法（3級・2級）」
- ② 「**(決算) 残高**」勘定という勘定口座を設け、そこに全部振り替える。  
「大陸式簿記法（2級）」

①<英米式>

現 金	
××	××
/	次期繰越 200
××	××
前期繰越 200	=

繰越試算表

現金 200		
⋮		⋮

②<大陸式>

現 金		
××	××	
/	決算残高 200	
××	××	
=	=	
決算残高		
現金 200		
⋮		⋮

総勘定元帳

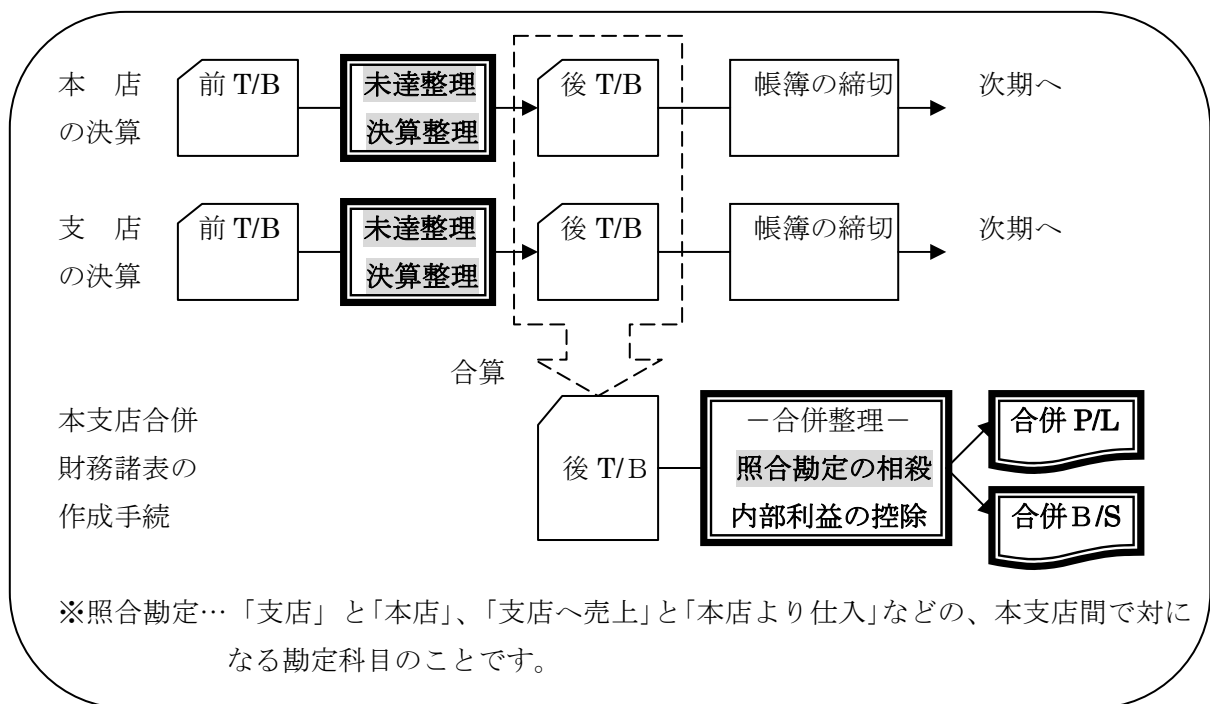
#### 4. 本支店会計

##### (1) 本支店合併財務諸表の作成①(総論)

支店独立会計制度のもとでは、本店・支店にそれぞれ会計帳簿があることから、普段の取引の記帳および業績管理は、本店・支店単位で行われます。

これとは別に、決算において、外部公表用の「本支店合併財務諸表」を作成しなければなりません。この手続は、一般に、本店の経理部門で一括して行われます。

本支店合併財務諸表を作成するまでのおおまかな手続の流れは、次のようになります。



次のページから後は、上記の図に従って、各手続の内容を学習していきます。

(2) 本支店合併財務諸表の作成②(未達整理)

本支店間取引のうち、いずれか一方のみが仕訳し、他方は連絡未達などの理由で仕訳をしていない場合、これを「未達取引」といいます。

未達取引があった場合、仕訳をしていない側の事業所は、決算の時に、決算整理に先立って未達分の仕訳を行い、他方の事業所の記帳と対になるようにします。

(例) 本店は支店へ現金¥2,000を送付したが、決算日現在、支店へ未達でした。

	＜本店の仕訳＞		＜支店の仕訳＞	
	借方	貸方	借方	貸方
送金時	支店 2,000	現金 2,000	仕訳なし	
決算時	仕訳不要		現金 2,000	本店 2,000

↑  
未達仕訳

(練習) 次の未達取引を仕訳してみましょう。

- (1) 本店は支店へ商品¥2,500を発送したが、支店へ未達だった。  
 (2) 支店は本店の売掛金¥3,000を回収したが、本店へ連絡が未達だった。

(答え)

(1)

	＜本店の仕訳＞		＜支店の仕訳＞	
	借方	貸方	借方	貸方
期中取引	支店 2,500	支店へ売上 2,500		
未達仕訳			本店より仕入 2,500	本店 2,500

(2)

	＜本店の仕訳＞		＜支店の仕訳＞	
	借方	貸方	借方	貸方
期中取引			現金 3,000	本店 3,000
未達仕訳	支店 3,000	売掛金 3,000		

☆ 未達取引整理の次は、本店・支店で決算整理仕訳を行います。ここでは、すでに学習した「貸倒引当金の設定」や「減価償却」などの決算修正を行えばよいのです。

### (3) 本支店合併財務諸表の作成③(照合勘定)

本店で行う帳簿外の合併整理の1つ目は、「照合勘定の相殺」です。

本店と支店の試算表を合算した後、「支店」勘定と「本店」勘定、「支店へ売上」勘定と「本店より仕入」勘定は、外部公表用の財務諸表には不要の項目なので、互いに相殺します。

なお、この手続は、仕訳(転記)ではなく、財務諸表作成のための計算上の手続に過ぎないので、くれぐれもご注意ください。この点は、次の「内部利益の控除」も同様です。

照合勘定を相殺するための、**財務諸表における表示の組み替え**(仕訳イメージ)。

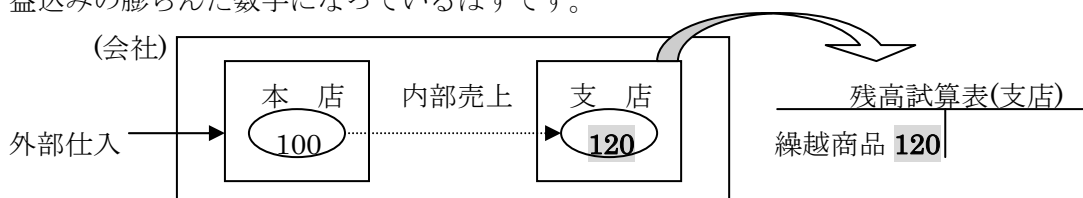
(借) 本店	(-) ×××	(貸) 支店	(-) ×××
(借) 支店へ売上	(-) ×××	(貸) 本店より仕入	(-) ×××

※ 本店・支店の仕訳帳・総勘定元帳で、上記のような仕訳・転記が行われているわけではないので、お間違えのないよう！

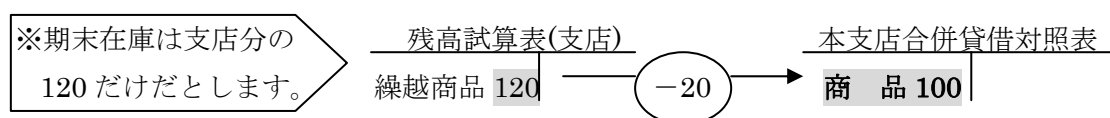
(4) 本支店合併財務諸表の作成④(内部利益)

本店で行う帳簿外の合併整理の2つ目は、「内部利益の控除」です。

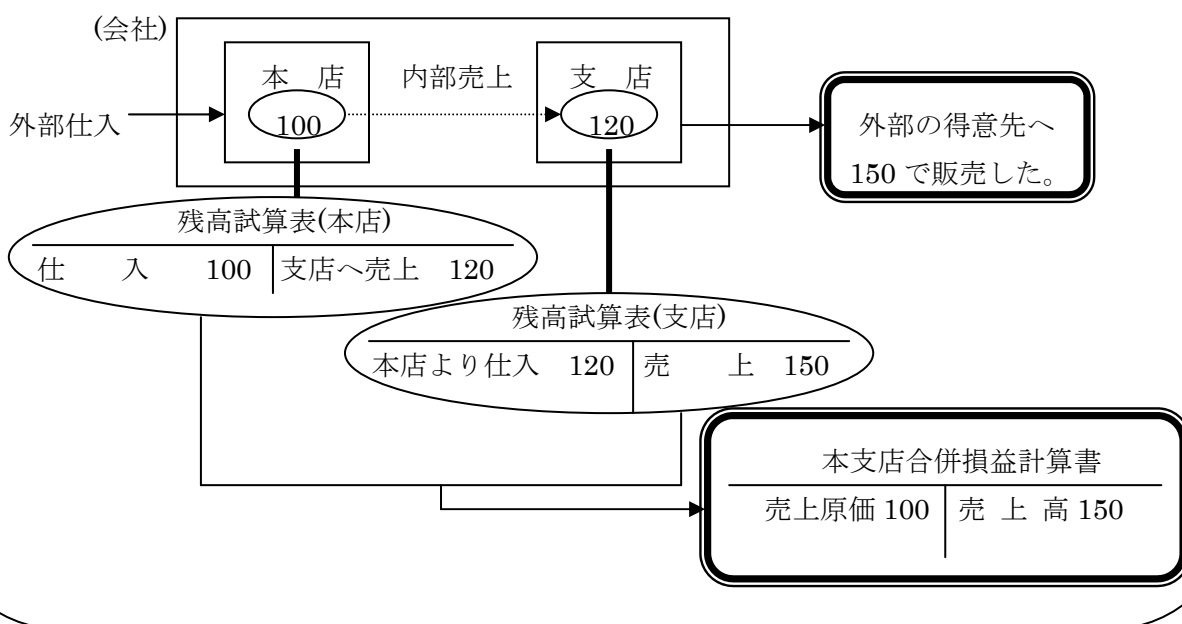
本店から支店へ、たとえば20%の内部利益を加算して商品を移動させた場合、その商品が期末に支店の在庫として残っていると、支店の帳簿における「繰越商品」残高は、内部利益込みの膨らんだ数字になっているはずですが、



上記のままでは、未実現の利益20「 $(120 \div 1.2) \times 0.2$ 」が混入したまま、財務諸表に商品残高が表示されてしまいます。そこで、公表用の財務諸表を作成するさいに、期首および期末の繰越商品残高から、内部利益を控除して財務諸表に記載しなければなりません。



☆ なお、内部売上の商品が、期中に外部へ売却されていれば、それは利益が実現しているため、期末における内部利益の調整は必要ありません。



(5) 本支店合併財務諸表の作成⑤(総合問題)

(問題)

次に示す本支店の決算整理前残高試算表、未達事項、および決算整理事項に基づき、本支店合併損益計算書と本支店合併貸借対照表を作成しなさい。

本支店残高試算表 (単位：千円)

借方科目	本店	支店	貸方科目	本店	支店
現金預金	82,000	8,800	買掛金	30,000	9,480
売掛金	52,000	21,000	繰延内部利益	240	
繰越商品	15,000	6,400	貸倒引当金	60	20
前払金	900	0	減価償却累計額	18,000	8,000
備品	60,000	20,000	資本金	100,000	0
支店	34,500	0	繰越利益剰余金	22,000	0
仕入	165,000	52,000	本店	0	31,000
本店より仕入	0	28,600	売上	230,000	99,000
販売費及び一般管理費	20,000	10,000	支店へ売上	29,800	0
営業外費用	1,400	700	営業外収益	700	0
	430,800	147,500		430,800	147,500

☆未達事項(一部の金額は、各自推定すること)☆

- (1) 本店から支店へ発送した商品( ? )千円が支店に未達。
- (2) 支店から本店に送金した 3,000 千円が未達。
- (3) 本店が支払った固定資産税のうち、1,300 千円は支店負担分だが、支店に未達。
- (4) 支店が回収した本店の売掛金 2,000 千円の通知が本店に未達。

☆決算整理事項☆

- (1) 期末商品棚卸高(未達取引分を除く)

本店 15,000 千円 A 商品 750 個(単価 20 千円)

支店 8,100 千円 A 商品 100 個(単価 24 千円)…本店仕入分。

B 商品 50 個(単価 114 千円)…外部より仕入分。

なお、本店から支店へ売上げるさいには、原価に 20%の利益が加算されている。

支店の期首商品の中には、本店から仕入れたものが 1,440 千円含まれている。

- (2) 備品の減価償却費は、耐用年数 5 年、残存価額 10%で計算する(定額法)。
- (3) 貸倒引当金は、期末売掛金残高に対し 2%を設定する(差額補充法)。
- (4) 本店の販売費に前払分が 200 千円、支店の一般管理費に未払分が 300 千円ある。